

信大人文学部 花崎ゼミ学生ら

秀峰でパーティー

「ハロウィン」で楽しく国際理解

松本市の信大人文学部の花崎美紀准教授のゼミナールは10月29日、同学部と連携協定を結んだ同市の松本秀峰中等教育学校で、ハロウィンパーティーを開いた。秀峰が取り組む総合的な学習の時間を使った国際理解や、信大と秀峰の外国語部とのプロジェクトなどをいい形でスタートさせようという企画した。

同ゼミの学生を中心とした2〜4年約40人は、白雪姫などに仮装したり、風船などで会場を飾り付けたりして参加。秀峰の外国語部の武居祐佳部長が「ようこそ。一緒に楽しみましょう」と英語であいさつし、クラッカーを鳴らしてパーティーを始めた。



ホットケーキをクリームなどでデコレーションする秀峰の生徒たち。学生との交流も深まり、盛り上がった

好きなブースを回った。

信大側のリーダー、藤本佳奈さん（4年）は「楽しく笑顔いっぱいパーティーになればと企画した。交流を通して英語の楽しさ、文化を伝えたい」。秀峰中等教育学校1年の

堀口葉さんは「大学生との交流は初めて。知らないことをいっぱい教えてほしい」と話した。

6日には、秀峰の総合的な学習のプロジェクトがスタートする。信大生も加わって、国際交流をテーマに初日の授業なども予定している。写真は見せながらハロウィンの意味な

（八代啓子）

高齢者88人と笑顔の交流会

松商学園

松本市の松商学園高校（金井貞徳校長）は10月30日、同校周辺の第三地区のお年寄り88人を招き、交流会を開いた。

放送部が中心になり、吹奏楽部、琴部、茶道部などが協力し、抹茶や演奏などももてなした。放送部のビデオ作品上映もあり、お年寄りは時折笑いながらも真剣に見ていた。



笑顔で交流を深めた昼食

交流会は毎年開く恒例行事。昨年は新型インフルエンザの流行で中止となり、2年ぶりに再開した。百瀬秀俊教諭39は「お年寄りに楽しんでもらうのが一番だが、生徒らの人間形成の場にもなればよい」と話した。

白石賢史君（3年）